十勝リハビリテーションセンター

2024年 春号

REHAMAGA

患者様の栄養状態を最適に保つために

～多職種連携による栄養管理の重要性～

社会医療法人 北斗
十勝リハビリテーションセンター

管理栄養士とは

食事のエネルギーを回復の源に

当センターではリハ栄養を実践しています。リハ栄養とはリハビリを必要としている患者様に対し、リハビリの内容を考慮した栄養管理と、栄養状態を考慮したリハビリを行うことを言います。入院時、疾患の影響で低栄養状態の患者様は多く、そのうえでリハビリを行うためには普通より多くのエネルギーやタンパク質を摂る必要があります。リハビリが進み活動量が増えることでも必要なエネルギー量は増加していきます。
しかし、糖尿病、腎臓病など基礎疾患を持っている患者様はエネルギーやタンパク質に制限があるため、増やしすぎもよくありません。過不足無く栄養量を摂れるよう、医師、看護師、リハビリスタッフと相談しながら、食事内容を調整することが私達管理栄養士の役割であり、それによって患者様がどんどん元気になっていく経過を見ていけることに、この仕事のやりがいを感じます。

管理栄養士
秋山　健太

行事食について

季節のイベントを食事で彩り、入院中の患者様に食事を少しでも楽しみにしていただけるよう、毎月行事食を提供しています。

2月 節分メニュー

節分の太巻きとお稲荷さんは福を呼び運気をアップ、無病息災を願って楽しく召し上がっていただきました。

おしながき
- 稲荷、太巻き
- 赤魚のから揚げ
- 小松菜柚子和え
- 和風小豆ムース

3月 ひなまつりメニュー

ひな祭りは女の子の成長や幸せを願う行事です。お赤飯に白桃ようかん、華やかな祝い膳にそれぞれの思いをのせて。

おしながき
- 赤飯
- サーモンの幽庵焼き
- 和え物　・白桃ようかん

栄養士の業務内容の紹介

給食管理

患者様に安心安全な食事を提供できるよう、日々の献立内容の確認やアレルギー献立の作成、トレーチェックなどを行っております。
また入院中の食事を楽しんで頂けるよう、治療上の制限を守りつつ、行事食やセレクト献立(常食のみ)を実施しております。
年に1回嗜好調査を実施し、患者様の声を献立に反映できるよう努めております。

栄養指導

高血圧症や糖尿病、慢性腎不全などの基礎疾患がある方や嚥下調整食が必要な方、低栄養の方を対象に、患者様本人やご家族の方へ栄養指導を実施しております。
栄養指導では、退院後も患者様が適正な食習慣を継続できるよう、食事への考えやライフスタイル、嗜好などに寄り添った提案を心がけております。

栄養管理

各病棟に1名ずつ担当管理栄養士を配置し、入院患者様の食事をサポートしております。
患者様が入院された際は疾患や栄養状態などを考慮して食事内容を検討し、現在の食事内容が適切であるか定期的に評価しております。
栄養状態の改善が必要な患者様は、毎週1回リハ栄養カンファレンスを実施しております。

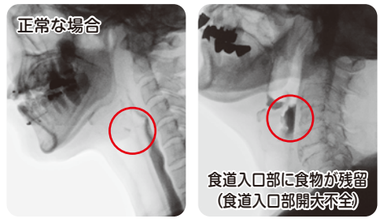
嚥下（えんげ）障害への取り組み

食べたり飲んだりすることの障害である「嚥下障害」に対して、多職種でアプローチすることが成功の鍵を握ります。看護師が口腔ケアで口腔内環境を整え、PT・OTが安全においしく食べるための土台となる姿勢を作り、STが飲み込みの改善を図ります。そして、栄養士が栄養満点でおいしい食事を提供します。他職種がチーム一丸となって取り組んでいます。

電気刺激療法について

従来の嚥下リハビリに加え、患者様の症状に合わせてバイタルスティム（飲み込みの力を鍛える）とジェントルスティム（のどの感覚を良くする）という2つの電気刺激装置を使用することにより、より効果的にリハビリを行うことができます。

VF/VEの検査について



嚥下造影検査（VF）は造影剤を混ぜた模擬食品を使用して、口やのどの動き、食物の流れを確認します。嚥下内視鏡検査（VE）では、鼻から内視鏡カメラを挿入し、喉の様子を直接観察します。これらの検査結果から、食べられる安全な姿勢や食形態を決定します。

栄養士さんは高度な専門知識や技術を持っていることは間違いないですが、日ごろから患者様一人一人に声をかけるなど、患者様に寄り添う姿勢も素晴らしいです。行事食のメニュー開発やカードの準備など、きめ細やかな配慮もできる頼もしい存在です！

言語聴覚士
日野　美貴

リハ栄養チームについて

入院患者様が、最大限のリハビリの効果を得るためには「リハビリを行える体づくり」が必要です。
リハ栄養チームは他職種で患者様の嗜好や食事に対する思い、採血データや体重、摂取栄養量、リハビリや病棟での活動量、嚥下訓練の状況などを共有、提供食事内容や患者様への関わりなどを検討しております。
他職種で話し合いを行うことで、管理栄養士だけでは収集できない情報や他職種からの意見も伺えるため、個々に合わせた栄養管理の実施に繋げられていると感じております。

TOKACHI REHABILITATION CENTER

「回復期 リハビリテーション病棟協会 第43回研究大会 in 熊本」で発表しました

2024年3月7～9日に熊本城ホールで行われた、回復期リハビリテーション病棟協会研究大会で、作業療法士の森田和幸、木下和海、公認心理師の齊藤匠真、荻野さゆりが演題発表を行いました。今回の研究大会は、約4年ぶりに対面のみでの開催となり、会場は多くの医療介護関係者で賑わっていました。多くの演題発表や講演がある中で、公認心理師の演題発表は齊藤心理師と荻野心理師のみであり、回復期リハ病院における心理師の関わりは全国的にも珍しく、二人の発表会場には多くの聴講者が集まり、注目度の高さが伺えました。また、森田OTと木下OTは、近年医療業界で注目されているリハ栄養と運転支援に関する発表で、こちらにも聴講者が多く集まり、様々な意見交換をすることが出来ました。今後も、当院での活動や取り組み、成果などを積極的に全国へ発信し続けていきたいと思います。

回復期リハ病棟入院時の栄養状態が退院時FIM・実績指数・帰結先に与える影響

作業療法科 科長　森田　和幸

当院における自動車運転再開支援 ～ よりスムーズな相互連携への取り組み ～

臨床心理科 副科長　齊藤　匠真

アイトラッカーを用いて注視行動をフィードバックした結果、運転行動に変化があった一事例

作業療法科　木下　和海

『死にたい』と言われたら ～ 回復期における脳卒中後うつの理解とケア ～

臨床心理科　荻野 さゆり

社会医療法人 北斗
十勝リハビリテーションセンター

〒080-0833 帯広市稲田町基線2番地1
☎ 0155-47-5700
FAX 0155-47-5701

お電話対応時間 平日／9:00～17:00、土曜／12:00まで

- 帯広駅から車でおよそ20分
- 十勝バス「十勝リハビリテーション前」より徒歩2分